

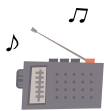
2019

8

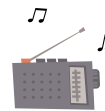
月号

つ・な・ぐ

もうひとつの居場所 見つけた！



ラジオ体操からはじまる一日 元気につながる場所



梅雨明け間近、それまでのぐずついた天気からやっと晴れ間がのぞいた朝、「1、2、3、4…」元気なかけ声が響きます。三番瀬近くにある「まちづくり活動プラザ」にご近所の方々が三々五々集まってきます。その数、30人あまり、首からタオルをかけ「おはようございます」の挨拶の後は、ラジオ体操第1からはじまり、第2、そしてストレッチ体操と続きます。朝のウォーキングのあとの“仕上げ”として参加する人、病気のリハビリとリフレッシュを兼ねて参加する人、その理由はさまざまですが、共通しているのは「健康維持」、そして「ご近所さんと仲良くしたい」、そんな思いから…。

さて、ラジオ体操を媒体としてはじまったこの活動は、1年ほど前、同施設オープンと共にスタート。初日の参加者はたったの5人、それでも元気に続ける内に、今では毎回30人を数えるほどになっています。世話人の方々にお話を伺うと、その秘訣はどうやら「ゆるやかに・無理しないこと」がポイントのようです。たとえば、時間について。ラジオ体操としては少々遅めの8時30分、平日の開催、雨が降れば中止、役員や係は決めず、体調に合わせてやれる範囲で体操します。駐車場から運動場側入口前にかけて、夏場は日陰を求めて、寒い季節は日向で、というようにお日様に合わせて少しずつ場所を移動させていきます。晴れた日には体を反らせると澄みきった青空や渡り鳥の群れが目に入ります。

参加者からは「気持ちよく一日がスタートできる」「隣近所の人と関わることが少なかったけれど、知り合いがたくさんできて良かった」など嬉しい声もたくさん聞かれます。時には旅先のお土産を分け合ったり、お茶会を開いたり、楽しいこと満載。

最近では世代ごと、あるいは世代を超えてつながることを目的とした「地域の居場所」作りが盛んに行われています。地域課題解決にもつながることから、市民活動団体の中にも“サロン”や“カフェ”など居場所を提供・運営する団体も増えています。

居場所のひとつのカタチとして、みんなで気軽にできるラジオ体操、みなさんもはじめてみませんか！ 一日のはじまり、まちのあちこちで人が集まり元気な声が聞こえる、そんな居場所が増えることで、ますます活気のあるまち・浦安にしたいですね。



TSU・NA・GU

文具に気持ちを託して

タイ・ラオスの子供たちに文具を贈ろう

今年も市内の中学生から20代までを対象とした「若者のための夏休みボランティア」がスタート。7月21日（日）、まちづくり活動プラザでは「タイ・ラオスの子供たちに文具を贈ろう」というプログラムが開かれ、中高生12人が参加しました。主催は〈タイの子供たちを支援する会 コープクン・マーク〉。

13時～16時という限られた時間の中で、タイ・ラオスの子ども達への教育支援としての文具寄贈活動の一端に触れるひとときとなりました。



参加者たちは主に文具の「分類」、「状態のチェック」、「梱包」の一連の流れを経験。「状態のキレイなものを贈る」ことはもちろん、「アジアで主流の青ボールペンを基準として分類する」、「縦書き用のマス目ノートは不要」など、「相手国の文化に合ったものを贈ることが大切」とのスタッフの言葉を真剣に受け止めていました。



参加者は山のような文具を見て圧倒されていましたが、受け取った子どもたちが、すぐに使えるように鉛筆は削り、シャープペンシルには芯を入れ、ペンちゃんとは書けるかどうか試し書きをするなど、使う相手を思いやりながらの作業を熱心に進めます。そして最後は種類ごとに30kgずつ箱詰めし、作業は終了です。

この活動では作業を分担して行うのですが、スタッフがさりげなく参加者たちの様子や特性を見極めながら各自に仕事を割り振ります。試し書き一つとっても効率を考えての作業順序は人それぞれで、自分なりの工夫や協力して作業するときの特性に気付く良い機会にもなりました。



最後の振り返りの時間には「文具が届くまでに多くの人の協力があることを知り、助け合いの大切さを学んだ」、「遠く離れていても困っている人を助けることができるんだとわかった」、「一つの作業を連続して行うより、複数の作業を並行して行う方が好きだと分かった」、「パズルのような梱包作業は苦手と思っていたが、いざやってみると、いかに効率よく詰め合わせていくかを考える工夫ができた」、「自ら話しかけるのは得意ではないけれど、作業内容を次の人にスムーズに伝えることができた」といった感想が聞かれました。

周囲と協力しながらの作業を通じて、さまざまなことに気づき、新たな“得意”を発見した参加者たち。休憩時間も惜しんで、次々と作業の完了を報告し、続いての作業に取り組もうとする積極的な姿には、目を見張るものがありました。

普段の勉強だけでは得られないこれらの気づきや発見は、ボランティアそのものへの理解だけでなく、きっと将来を考える貴重な機会になったことでしょう。

（市民ライター 武田めぐ）

清掃活動から水辺の環境を知って、考える

第6回 境川クリーンアップ

7月28日(日)、境川であそぼう実行委員会(事務局:浦安水辺の会)により第6回境川クリーンアップが実施されました。「若者のための夏休みボランティア」のプログラムにもなっているこの活動に18名の中高生が参加し、清掃はもちろんスタッフとして会場設営などの事前準備や、後片付けやカニ釣りを体験しました。当日は早朝から悪天候でしたが、準備開始と同時に雨が止み、夏らしい日差しのもとでボランティア体験をすることができました。



SAKAIGAWA CLEAN UP

午前8時半、明海の丘公園に集合してすぐに TENT やのぼり旗など、必要な道具を運ぶことから活動がスタート。その後、浦安水辺の会のみなさんの指示に従ってチームに分かれ、受付用の TENT 張りや旗の組み立て、チラシ掲示、横断幕設置、カニ釣り用の釣竿準備などを進めました。清掃開始後は、一般の参加者の方を引率して入船橋から日の出橋までの境川下流域の護岸テラスに移動。護岸に落ちているゴミを拾い、さらにテラスをブラシでこすって清掃。川の中に浮かぶ白いビニール袋を発見した学生は、カヌーに乗って境川の水中のゴミを拾う浦安市カヌー協会のみなさんを誘導してゴミをスムーズに回収していました。また、活動の合間には、参加者の学生同士で自己紹介をして談笑している姿も見かけました。清掃後は一般参加者と共にカニ釣りを体験、片付けをして12時に解散となりました。

この活動に参加したきっかけは学校で夏休みボランティアのパンフレットが配られたからということでしたが、以前からボランティアを体験してみたいという気持ちがあり、せっかくの機会なので参加したという学生が多かったです。また、中でも清掃活動は普段の生活においても身近なので取り組みやすいから参加したという人や、一人より参加しやすいということで部活動の仲間や友達と一緒に申し込んだ人もいました。

活動終了後の振り返りでは「タバコの吸い殻や花火のゴミがたくさん落ちていた。自分の出したゴミをそれぞれが片づける大切さを感じた」また、「水辺で遊ぶことがあったら小さいゴミも残らないよう気をつけたい」、「今後も普段からゴミを拾うように心がけたい」、「これからもボランティア活動に積極的に参加したい」、「想像していたよりゴミは少なく、普段から地域の人が掃除をして環境保護に気をつけているおかげだと感じた」、「ゴミを拾うだけではなくカニ釣り体験をすることで境川の生態系を知ってみたいと思うようになった」などの声があり、水辺の環境に関心を持ち、地域のために活動する大人がたくさんいることを知る機会にもなりました。

梅雨明けを感じさせる暑さの中で、汗びっしょりになりながら清掃活動に励んだ中高生たち。この日に初めて出会った仲間と協力し合いながら活動を進め、清掃後のカニ釣りでは一緒に笑い合う若々しい姿が印象的でした。ボランティアを体験し、浦安水辺の会をはじめこの清掃活動に係わる市民活動団体のみなさんと交流することで、参加した中高生にとってボランティア活動や環境保護という視点がぐぐっと身近なものになったようです。

(市民ライター 西橋友理)

うらやす市民大学×市民活動センター共催・特別講座のご案内

「事例に学ぶ市民活動」他地域の先行事例から見つける「わたしにできること」

第1回 「地域に拓く市民活動の価値と役割」

- 日時：10月3日(木) 13:30～15:00
- 場所：うらやす市民大学
- 講師：認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
代表理事 牧野昌子さん

第2回 校外学習「築100年の木造校舎を活かして地域に新しい価値を創る」地域活動

- 日時：10月17日(木) 9:00～16:30
- 場所：内田未来楽校(市原市)
集合場所：浦安市役所・市民大学
- 講師：NPO法人報徳の会
内田未来楽校のみなさん

第3回 「一人ひとりの価値を認め合える地域社会を創る」市民活動

- 日時：11月7日(木) 13:30～15:00
- 場所：うらやす市民大学
- 講師：NPO法人子どもの環境を守る会「ワールド
三浦 輝江さん

第4回 「“地域資源”×“地域課題解決”を軸に はじめての一步、次の一步をカタチに」

- 日時：11月21日(木) 13:30～15:00
- 場所：うらやす市民大学
- 講師：公益財団法人ちばのWA地域づくり基金
事務局長 志村はるみさん

- 定 員：30名(先着順 定員になり次第締切)
※最少催行人数 15名
- 対 象：浦安市内在住・在学・在勤 ※全4回受講できる方
- 参加費：無料 ※第2回昼食代 300円程度
- 申込先：うらやす市民大学・市民活動センター
FAX・Eメール・直接にて
※9月2日(月)より受付開始

■ うらやす市民大学
TEL：047-351-4811 FAX：047-351-4812
E-mail shimindaigaku@city.urayasu.lg.jp

■ 市民活動センター
TEL：047-305-1721 FAX：047-305-1722
E-mail shiminkc@jcom.home.ne.jp

「つなぐプロジェクト」プログラム募集のお知らせ

今秋発行予定の改訂版作成に伴い、
新規プログラムを広く募集します。
地域に活動を広げ、連携のきっかけと
なります。ぜひお申し込みください。

■ 申込方法： 所定の申込用紙に必要事項をご記入の上、センターまで
FAX、Eメールにてお申し込みください。なお、申込用
紙はセンター受付に置いてあります。また、センターホ
ームページからダウンロードできます。

■ 締 切： 8月30日(金)

編集後記

センターのカウンターに置かれた箱には、いつも小さな折り鶴と折り紙が入っています。これは「浦安子ども劇場」が活動の一環として「平和の千羽鶴」への協力を呼びかけるために置いたもの。バス待ちのついでにと折り紙を手にとる方、自宅で作った鶴を定期的に持って来てくださる方など、協力してくださる方は少なくありません。これら平和への願いが込められた折り鶴は、子ども劇場の方々によって糸に通され、さらに毎年、市から派遣されている平和使節団の中学生たちに託され、長崎まで届けられます。それぞれの立場で「平和の折り鶴」に関わり、みんなの願いがひとつになって長崎に届くこと、とても素晴らしいことですね。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2019年8月10日

〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1 (市庁舎1階)
TEL：047-305-1721 / FAX：047-305-1722
E-mail：shiminkc@jcom.home.ne.jp
URL：<http://u-shimin.genki365.net>